

令和2年度 看護学部2学年シラバス（前期・通年）

<前期>

英語Ⅱ 前期A	…P1～6
〃 前期B	…P7～12
生体防御学	…P13～18
病態栄養学	…P19～24
薬物治療学	…P25～30
微生物学	…P31～36
病理学	…P37～42
看護技術とアセスメントⅡ	…P43～49
看護倫理学	…P50～55
疫学	…P56～62
基礎看護学実習Ⅱ	…P63～68
母性看護学	…P69～74
地域看護学Ⅰ	…P75～81
地域看護学Ⅱ	…P82～88
成人看護学Ⅰ	…P89～95
成人看護学Ⅱ	…P96～102
精神看護学Ⅰ	…P103～109

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語 2（English 2）前期 A グループ

教員名：田中 明夫

開講年次：2 年次，学 期：2020 度 前期，必修／選択：必修

授業形態：演習，単位数：2 単位 ， 時間数：30 時間

概要：看護・医療の分野で用いられる英語を理解し、使えるようになるために必要な基礎的英語技能を養います。看護・医療に関するニュース等を教材として用い、リスニング、シャドーイング、リーディングと必要な語彙と表現の整理と習得が授業の中心になります。

- 学習目標：1) 看護や医療に関するニュースを聞き、要旨を聞き取ることができる。
2) 看護や医療で用いられる基本的表現や語彙を正確に理解することができる。
3) 看護や医療に関して書かれた英文を正確に読み取ることができる。
4) 看護や医療で用いられる語彙を正しく発音することができる。
5) 英文を正しいイントネーション、ストレス、ピッチで発音することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/ 礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位

				認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：第1回目の授業で指示します。

参考書：『ウィズダム英和辞典』三省堂

『ジーニアス英和辞典』大修館書店

『リーダーズ英和辞典』研究社

Longman Dictionary of Contemporary English LONGMAN

Oxford Advanced Learner's Dictionary Oxford University Press

成績評価方法：小テスト、期末試験及び授業への参加度・貢献度を総合して評価します。

その他（メッセージ等）：初めて目にする語彙や表現が多く、事前に自分で調べなければな

らない事項が多くなると思います。必ず予習をして、積極的に授業に取り組んでください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	シャドーイングの基礎	シャドーイング
第2回	看護・医療に関するニュース(1)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第3回	看護・医療に関するニュース(2)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第4回	看護・医療に関するニュース(3)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第5回	看護・医療に関するニュース(4)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第6回	看護・医療に関するニュース(5)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第7回	看護・医療に関するニュース(6)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第8回	看護・医療に関するニュース(7)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第9回	看護・医療に関するニュース(8)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第10回	看護・医療に関するニュース(9)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第11回	看護・医療に関するニュース(10)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第12回	看護・医療に関するニュース(11)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第13回	看護・医療に関するニュース(12)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第14回	看護・医療に関するニュース(13)	リスニング, シャドーイング, リーディング
第15回	看護・医療に関するニュース(14)	まとめ

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語 II 前期 B グループ（English II）

教員名：中山 仁

開講年次：2年次，学 期：2020年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：演習 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：医療英語に関する記事などを読んで、看護・医療の分野で使われる英語の語彙や表現について学ぶ。授業では、(1)医療に関連する語彙・表現を覚える演習、(2)ニュースなどのリスニング・リーディングを通して、内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、(3)英文の内容を通して、最近の医療事情について理解を深める。

学習目標：1)基本的な医学用語を正しく発音し、その意味が理解できる。

2)習得した医学用語に基づいて、派生語や類義語の発音・意味を理解できる。

3)医療英語に関する記事のキーワードを読み取ることができる。

4)英語の文法と文章構成のパターンに基づいて、英文を正確に読み取ることができる。

5)英文を問題意識を持って読むことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位

				認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-
				修得の機会がない

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：教室で指示する。

参考書：1)一般語でより豊富な語彙を求める場合：『リーダーズ英和辞典』（研究社）

2)専門用語の理解のために：『ステッドマン医学大辞典』（メジカルビュー社）

成績評価方法：演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評価する。

その他（メッセージ等）：読む英文の量が増え、専門性が高くなります。しっかりと準備をして授業に臨んで下さい。医学用語の独特の発音とともにたくさんの語を覚え、英語を通して医療の知識や関心がさらに高まることを期待しています。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	医療・看護に関する記事(1)	リスニング・リーディング・発音練習
第2回	医療・看護に関する記事(2)	リスニング・リーディング・発音練習
第3回	医療・看護に関する記事(3)	リスニング・リーディング・発音練習
第4回	医療・看護に関する記事(4)	リスニング・リーディング・発音練習
第5回	医療・看護に関する記事(5)	リスニング・リーディング・発音練習
第6回	医療・看護に関する記事(6)	リスニング・リーディング・発音練習
第7回	医療・看護に関する記事(7)	リスニング・リーディング・発音練習
第8回	医療・看護に関する記事(8)	リスニング・リーディング・発音練習
第9回	医療・看護に関する記事(9)	リスニング・リーディング・発音練習
第10回	医療・看護に関する記事(10)	リスニング・リーディング・発音練習
第11回	医療・看護に関する記事(11)	リスニング・リーディング・発音練習
第12回	医療・看護に関する記事(12)	リスニング・リーディング・発音練習
第13回	医療・看護に関する記事(13)	リスニング・リーディング・発音練習
第14回	医療・看護に関する記事(14)	リスニング・リーディング・発音練習
第15回	医療・看護に関する記事(15)	まとめ

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する科目

科目名（英語名称含む）：生体防御学（biophylaxis）

教員名： 太田昌一郎、佐藤良信（附属病院災害医療部）、森努

開講年次：2年次，学 期：2020年度 前期 ，必修

授業形態：講義 ，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：疾患の成り立つ背景と、それに対する人体の防御システムを理解する。

学習目標：

- ① 外因とは何かを理解する。
- ② 皮膚の構造と機能を理解する。
- ③ 免疫系の構造と機能を理解する。
- ④ 看護職に必要な放射線に関する知識を得る。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	直接学ぶ機会はない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		

			責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場 に知識を応用 できることが 単位認定の 要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会 がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	地域に関連した疾患について学ぶ
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門		

			職者の役割について説明できる。		
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	◎	放射線医学およびそれにまつわる看護について学ぶ
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特に指定しない。講義資料を Web で提示する。

参考書：講義中に随時提示する。

成績評価方法：試験、レポートの等分評価

その他（メッセージ等）：欠席した場合には教員に報告し、その指示に従うこと。

授業内容が前後、変更となることがある。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション	生体防御システム概論
第2回	物理的要因	外力による損傷、温熱による損傷、圧力による損傷
第3回	化学的要因	化学物質、医薬品、医薬用外品、薬害
第4回	生物学的要因	アレルギー、地域に特異的な感染症(野兔病)
第5回	環境変化による疾患	大気汚染、自然災害
第6回	皮膚	表皮、真皮、皮下組織、爪、毛
第7回	免疫組織	リンパ組織、リンパ節、骨髄、扁桃、虫垂
第8回	免疫理論	抗体、抗原抗体反応、移植免疫

第9回	放射線医学概論	放射線の基礎知識
第10回	放射線医学各論1	
第11回	放射線医学各論2	
第12回	放射線医学各論3	
第13回	放射線医学各論4	
第14回	災害と看護	
第15回	まとめ	

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）：病態栄養学（Clinical nutrition）

教員名：中村 啓子

開講年次：1 2 3 4年次，学 期：2020年度 前期後期 ， 必修／選択：必修選択

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：人減にとっての栄養の意義を理解し、人間の成長発育や生命維持に必要な各種栄養素の種類と代謝について学習する。各種の疾患や病態が、どのような食事や栄養補給が病態と栄養状態を改善するために有効であるか治療食について理解する。

学習目標：人間の成長、生命維持活動に関与する各種栄養素の種類と代謝やライフステージによる栄養状態の変化と食事・栄養管理について、疾病時の栄養療法について理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	〃
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	〃
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	○	〃
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	〃
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	実践の場に応用できることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 看護栄養学（医歯薬出版）

参考書：

成績評価方法：筆記試験20%、レポート60%、出席状況20%で評価する。詳しくは第1回目の授業で示す。

その他（メッセージ等）： 看護教育における病態栄養学は生きることを支える看護の基本への教育といえるでしょう。“その人らしさ”を損なうことなく援助できるような知識を身に付けてください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	疾病と栄養 ライフサイクルと栄養	“その人らしい食生活” への援助 人間の成長過程における食生活・栄養管理
第2回	病態と栄養	疾病時の栄養方法
第3回	疾病と栄養	代謝疾患の栄養療法
第4回	現代人の食生活の課題	現代人の食生活から
第5回		常食について実習
第6回	健康・栄養状態の評価	栄養アセスメント
第7回		粥食について実習
第8回	QOL と食生活	食の精神面からの考察
第9回		エネルギーコントロール食実習
第10回	病態と栄養	塩分管理について
第11回		減塩の方法について実習
第12回	病態と栄養	たんぱく質コントロールについて
第13回		実習
第14回	病態と栄養	嚥下困難食について
第15回		実習

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）： 薬物治療学（Pharmacotherapy）

教員名： 尾形 浩

開講年次： 2年次，学 期： 2020年度 前期・後期 ， 必修／選択： 必修

授業形態： 講義， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要： 薬物が生体に作用して引き起こす種々の反応とその作用機序について学び、薬について患者にわかりやすく説明できるように狭義の薬物療法学についての基礎知識を習得する。

学習目標： 薬物療法を実施するにあたっての必要な薬物の基礎知識を学ぶ。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェSSIONAL				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	

2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。	
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。	
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。	
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。	
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	
6. 地域社会への貢献				
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>				
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。	

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： コメディカルのための薬理学 渡邊泰秀・安西尚彦・櫻田 香 編 朝倉書店

参考書： 系統看護学講座：専門基礎「薬理学」医学書院

成績評価方法： 平常点、試験などを総合的に評価する。

その他（メッセージ等）： 人体解剖生理学 I・II、生化学、病理学の単位を修得しておくこと。また、各章ごとの資料をFMUパスポートに掲示するので授業にあたって各自紙媒体等に出力して持参すること。

授業内容(学習項目)

回	項目	内容(キーワード等)
1,2	薬理学総論(1)	薬とは、薬物の体内動態
3,4	薬理学総論(2)	薬の作用と作用機序
5,6	感染症治療薬	抗菌薬(抗生物質、抗菌薬)、抗ウイルス(HIV、HCV、インフルエンザ)薬、特殊な感染症
7,8	抗がん薬	各種抗がん薬と支持療法、分子標的療法

9,10	免疫治療薬	免疫抑制薬、免疫増強薬、感染予防薬
11,12	抗アレルギー薬	抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬
13,14	抗炎症、鎮痛薬	非ステロイド性抗炎症薬、鎮痛薬、ステロイド性抗炎症薬、慢性関節リウマチ治療薬、片頭痛治療薬
15,16	末梢神経作用薬（総論）	自律神経系と神経伝達物質
17,18	末梢神経作用薬（各論）	自律神経に作用する薬物、局所麻酔薬、筋弛緩薬
19,20	中枢神経作用薬（総論）	中枢神経系と神経伝達物質
21,22	中枢神経作用薬（各論）	抗不安薬と催眠薬、統合失調症治療薬、認知症治療薬、双極性障害治療薬、抗うつ薬、パーキンソン病治療薬、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬
23,24,	循環器系、血液系疾患治療薬	虚血性心疾患治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、降圧薬、利尿薬、高脂血症治療薬、抗血液凝固薬
25,26	呼吸器、消化器系疾患治療薬	気管支喘息治療薬、消化性潰瘍治療薬、ヘリコバクター・ピロリ除菌薬
27,28	代謝内分泌疾患治療薬	糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬
29,30	漢方薬、検査・診断薬	漢方薬と適応症、検査診断薬

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）： 微生物学 （ Microbiology ）

教員名： 錫谷達夫、末永忠広

開講年次： 2年次，学 期：2020年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要： 看護の現場には多数の感染症患者がおり、患者からの感染を防ぎながら看護する知識や技術は必須である。また、高度な医療を受けている患者の多くは免疫能が低下しており、我々が持つ常在菌ですら死に至る感染症を起こすため、清潔な看護が要求される。微生物学では感染症がどの様に起こるのかを学び、看護の実践の基礎となる感染制御の理論を学ぶ。

- 学習目標： 1) 感染症の感染経路を概説し、感染経路別の予防策を説明できる。
2) 滅菌と消毒の方法を理解し、病院での滅菌・消毒を実践できる。
3) 予防接種の種類と接種の法的な区分を説明できる。
4) 主要な微生物の性質と感染経路、疾患を説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	—	
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： ナースのための微生物学 ―感染症とその対策の理解のために―

参考書： 国民衛生の動向

成績評価方法： 試験

その他（メッセージ等）：

- ① 講義に関連する教科書のページ数を下記の表に記載しました。予習してきてください。
- ② 講義時間が減ったため実習を行えなくなりました。希望者には空き時間か夏季休暇を使って実習しますので、是非相談して下さい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	微生物学総論	ガイダンス、微生物学の歴史（第1章；p. 1-3）

第2回	微生物学総論	細菌とは、真菌とは (第2章 ; p. 5-14)
第3回	微生物学総論	感染とは何か (第4章 ; p. 35-40, 43-44)
第4回	微生物学総論	感染経路 (第4章 ; p. 40-42)
第5回	微生物学総論	滅菌と消毒 (第6章 ; p. 68-82)
第6回	微生物学総論	ワクチン (第6章 ; p. 65-68)
第7回	細菌学各論	ブドウ球菌とレンサ球菌 (第7章 ; p. 96-100)
第8回	細菌学各論	肺炎を起こす菌 (第7章 ; p. 101, 116-117, 131-134)
第9回	細菌学各論	腸炎を起こす菌 (第7章 ; p. 107-116, 124)
第10回	細菌学各論	芽胞形成菌、ピロリ菌 (第7章 ; p. 117-122, 124)
第11回	ウイルス学総論	ウイルスとは (第2章 ; p. 14-18)
第12回	ウイルス学各論	ヘルペスウイルス (第8章 ; p. 145-149)
第13回	ウイルス学各論	ワクチンで予防しているウイルス性疾患 (第8章 ; p. 150, 151-157, 160)
第14回	ウイルス学各論	レトロウイルス (第8章 ; p. 167-169)
第15回	ウイルス学各論	肝炎ウイルス (第8章 ; p. 171-176)

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する科目

科目名（英語名称含む）：病理学（Pathology）

教員名： 太田昌一郎、橋本優子（医学部）、高橋一人（新医療系学部準備室）

開講年次：2年次，学 期：2020年度 前期 ，必修

授業形態：講義、実習 ，単位数：2単位 ，時間数：60時間

概要：疾患の成り立つ背景と、それに対する人体の反応を理解する。

学習目標：

- ⑤ 病理変化とは何かを理解する。
- ⑥ 基本的な病態の特徴を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが単位の認定には関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会はあるが単位の認定には関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが単位の認定には関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが単位認定には関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが単位認定には関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会はない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが単位認定には関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：講義中に指示する。講義資料を Web で提示する。

参考書：講義中に随時提示する。

成績評価方法：試験、レポートの等分評価

その他（メッセージ等）：講義の内容は前後することがある。教員より連絡がある。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション	病理学とは？
第2回	退行性変化	萎縮、変性、壊死、アポトーシス、個体死
第3回	進行性変化	肥大、過形成、肉芽組織、修復、瘢痕、治癒
第4回	循環障害	出血、虚血、凝固異常、浮腫、腔水症、心不全
第5回	代謝障害	糖原病、脂質代謝異常、糖尿病、アミロイドーシス
第6回	免疫異常	アレルギー、後天性免疫不全症候群
第7回	炎症	急性炎症、慢性特異性炎症
第8回	腫瘍	発癌機序、良性腫瘍、悪性腫瘍、癌腫、肉腫
第9回	先天異常	催奇形因子、臨界期、単体奇形、二重体
第10回	病理標本の作製	

第11回	細胞診について	
第12回	各論1	神経系、頭頸部、感覚器
第13回	各論2	循環器、脈管系
第14回	各論3	消化器、運動器
第15回	各論4	骨盤内臓器、内分泌、婦人科

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：看護技術とアセスメントⅡ（Nursing skills and assessmentⅡ）

教員名：川島理恵 林紋美 丸山育子 他

開講年次：2年次，学 期：2020年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義演習 ，単位数：3単位 時間数：45時間

概要：本科目は、「看護技術とアセスメントⅠ」の学習を基に、学びを積みあげて行きます。

はじめに、生命を維持し、自立した生活を送るうえで欠かせない「呼吸・循環・体温」の意義やアセスメントについて学びます。そして、日常生活において重要な、「活動・栄養・排泄」の支援について学びます。さらに、検査、治療、入院という特殊な状況に置かれる対象の安全や安楽を守るための支援について学びます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- 1) 血圧・脈拍・呼吸・体温が恒常性を保つしくみを理解することができる。
- 2) 血圧・脈拍・呼吸・体温の正常と異常をアセスメントするための基礎的知識を理解できる。
- 3) 血圧・脈拍・呼吸・体温を観察することができる。
- 4) 血圧・脈拍・呼吸・体温の一連を観察し、その結果の意味をアセスメントできる。
- 5) 「活動、栄養、排泄」について看護者が支援する必要性を理解できる。
- 6) 「活動、栄養、排泄」をアセスメントするための基礎的知識を理解できる。
- 7) 「活動、栄養、排泄」に関する基礎的看護技術を獲得できる。
- 8) 医療における感染予防の必要性を理解することができる。
- 9) 感染予防のための基礎的看護技術を獲得できる。
- 10) 検査や治療を受ける対象の状況を理解し、看護師の役割を考えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		的に示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	－	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	－	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場で知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定はしません。授業で資料を配布します。

参考書：適宜紹介します。

成績評価方法：筆記試験、実技試験、授業への取組みで総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：看護は人の生活を援助することです。そのためには、対象の健康や生活を把握する能力が必要です。特に、看護者が身体のしくみや働きについて理解することは、対象の苦痛を把握する上で大変重要です。1年次に学んだ内容を復習しながら学習を進めてください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1・2回	呼吸・循環・体温	フィジカルアセスメントに必要なテクニック、呼吸と脈拍の観察
第3～5回	呼吸・循環・体温	呼吸と循環のしくみとアセスメント
第6・7回	呼吸・循環・体温	循環状態の観察（血圧の測定）
第8～10回	呼吸・循環・体温	呼吸状態の観察（視診・触診・打診）
第11・12回	活動と運動	1年次の復習、仰臥位から端座位への介助
第13・14回	活動と運動	座位から立位への介助
第15～17回	活動と運動	人が動く、姿勢を保つ時の神経の働き 運動調節障害とその観察
第18～20回	感染予防	医療における感染予防の意義と方法 衛生的な手洗い、滅菌手袋の装着
第21～23回	感染予防	無菌操作の考え方、鑷子による綿球の受け渡し
第24～26回	検査を受ける対象への援助	治療における検査の意義と対象の心理 事例を用いたグループワーク
第27～29回	栄養	経口摂取を行うことができない対象の栄養 摂取、経管栄養

第 30～32 回	栄養	栄養評価、栄養評価のグループワーク
第 33～36 回	排泄	自然排泄をおこなうことができない対象の排泄の援助、持続的導尿の管理
第 37～40 回	排泄	間歇的導尿の目的と方法、モデルを用いての間歇的導尿の実際
第 41～43 回	呼吸・循環・体温	体温のしくみとアセスメント、罨法、体温測定
第 44・45 回	呼吸・循環・体温	呼吸音の聴取、一連のバイタルサインの測定とアセスメント

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：看護倫理学（Nursing ethics）

教員名：佐藤 博子

開講年次：2年次，学期：2020年度 前期，必修/選択：必修

授業形態：講義，単位数：1単位，時間数：15時間

概要：治療やケアの決定をめぐる、医療サービスを提供する側や受ける側、その周辺の関係者にはさまざまな問題や葛藤が生じる。このような状況に際して看護の提供者として、倫理的感受性を滋養することを目標とし、具体的な事例について検討し、倫理的に判断し、どのように取り組めばよいのか解決法を学習する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：1) 看護実践における倫理の重要性について説明できる。

2) 専門職の看護倫理綱領の意義と内容について説明できる。

3) 倫理問題解決のための方法について説明できる。

4) 看護専門職が持つべき倫理的感受性を高め、責務を追及しようとする姿勢について理解できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③ 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。		〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	習得の機会がない。

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	習得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	習得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	習得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 宮坂道夫 著者代表 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院

参考書： その他、講義内で提示する

成績評価方法： 授業への参加度とレポート、試験により評価する。

その他（メッセージ等）： 看護の専門性と倫理的課題についての理解を深め、専門職としての倫理的態度について学びましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	看護倫理についての基礎知識	看護倫理とは
第2回	看護倫理についての基礎知識	看護倫理の必要性

第3回	専門職としての看護倫理綱領	日本看護協会の倫理綱領
第4回 第5回	看護の場面における倫理的ジレンマ	倫理的分析と意思決定モデル
第6回 第7回	インフォームド・コンセントと意思決定支援 看護師の役割	インフォームド・コンセントと意思決定支援 看護師の役割について
第8回	看護倫理問題の事例検討	模擬事例について検討
第9回	看護倫理問題の事例検討	模擬事例について検討
第10回 第11回	専門職としての看護倫理綱領	日本看護協会の倫理綱領を読み解く 自己学習とグループワーク
第12回	専門職としての看護倫理綱領	日本看護協会の倫理綱領を読み解く グループワーク発表
第13回	看護倫理問題の事例検討	模擬事例について検討
第14回	看護研究における倫理	看護研究における倫理、倫理審査
第15回	まとめ	

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：疫学（Epidemiology）

教員名：後藤あや，（医）村上道夫，松井史郎

開講年次：2年次，学期：2020年度前期，必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：2単位，時間数：30時間

概要：

疫学の講義は、統計学（1年後期）および情報学演習（2年後期）とシリーズになっており、この3つの講義と演習を通して、エビデンスに基づく保健医療が提供できる知識と技術が身につくことを目指します。

エビデンスとは、日本語にすると「根拠」です。保健医療サービスは、その効果が科学的に明らかであるもの、つまりエビデンスが検証されたものを提供することが望まれます。ここでエビデンスとは、数値だけではなく、人々の声（文章）のデータも含まれます。

疫学の講義では、統計学で学んだことを復習した上で、データを収集する調査デザインの特徴、交絡とバイアス、さらには論文に提示された結果を読み取るためのより発展的な知識を学びます。基礎的な机上の勉強と捉えられがちですが、疫学は非常に実用的であり、保健医療の実務で必ず使う実践技術です。

学習目標：

一般目標

エビデンスに基づく保健医療が提供できるようになるために、データを収集、分析、提示、読み取るための知識と技術を身につける。

具体的目標

1. 疫学指標について説明できる。
2. 疫学デザイン（生態学的研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究、介入研究、スクリーニング）の特徴について説明できる。
3. 交絡とバイアスについて説明できる。
4. 臨床疫学で得られたエビデンスを理解できる。
5. リスクの伝え方について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	講義に組み込まれているグループ演習に班員で協力して取り組む態度を評価する。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	EBM/EBNに必要な知識を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	グループ演習を通じて修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	◎	論理的思考能力としてデー

	もつ看護専門職者	② 倫理性を高める科目		データを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		③ 論理的思考能力を高める科目		
		④ 表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目	◎	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		② 人間の理解を深める科目		
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	① 看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		② 看護の実践		
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を实践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島で起こった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	災害時における科学的データの伝え方について、基礎的知識を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

授業内容(学習項目)

※3時間分を1回とする。(計30時間)

回数	項目	内容(キーワード等)
1	統計学の復習、疫学指標、因果関係 演習：統計の復習問題、因果関係の推測	有病率、罹患率、相対危険、寄与危険
2, 3	記述疫学、生態学研究、横断研究 演習：事例研究の読み取り	記述疫学、分析疫学、生態学的研究、横断研究、年齢調整、交絡
4	症例対照研究、コホート研究 演習：事例研究の読み取り	症例対照研究、コホート研究、バイアス
5	介入研究、スクリーニング 演習：事例研究の読み取り	無作為割り付け、マスキング、感度、特異度、陽性反応的中率、信頼性、妥当性
6, 7	臨床疫学の基本と実例 演習：得られたエビデンスの理解と実践	臨床疫学、EBM、ヘルスプロモーション
8	県民健康調査の事例からリスクを伝える 実際を学ぶ	コミュニケーション
9	リスクコミュニケーションの基礎を学ぶ	リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション
10	総復習	

テキスト：

日本疫学会(監修). はじめて学ぶやさしい疫学. 南江堂.

参考書：

横川博英(監)、藤林和俊(著). 看護研究をはじめのための統計と臨床疫学. 学研メディア

ル秀潤社.

成績評価方法：

試験（70%）と出席・提出物（30%）により総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：

シリーズとしている3つの講義・演習どれにおいても、演習への積極的な参加を求めます。

講義を聞くだけでなく、自分で考え、使うことで、知識と技術は定着します。

※特別講師（予定）：川井巧（大原総合病院）、郡山千早（鹿児島大学）、横川博英（順天堂大学）

区分名：看護の基本となる科目

科目名(英語名称含む)：基礎看護学実習Ⅱ (fundamental nursing clinical practicum Ⅱ)

教員名：木下美佐子 佐藤博子 川島理恵 堀内輝子 丸山育子 田中啓子 林紋美

開講年次：2年次，学 期：2020年度 後期 ， 必修/選択：必修

授業形態：実習，単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：本実習は、①と②の期間に分けて実習します。①は、健康問題を抱え、治療や検査を受けている方が生活して環境を理解する実習です。②は、2週間の受け持ちを通して対象を理解しながら、看護を実際に提供します。看護を提供するために不可欠な看護実践のプロセスを踏み看護実践の基礎的な力を培う実習です。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- (1) 対象が生活する療養環境への理解を深める。
- (2) 健康上の問題をもつ対象の生活に着目した看護過程が展開できる能力を培う。
- (3) 看護の展開を通して、対象との関係性を大切にすることへの思いを深める。
- (4) 専門職として自律できる態度を身につける。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職とし

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		ての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を		

			認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	—	修得の機会はない

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会はない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない。

参考書：適宜提示する。

当該実習総時間数の 5分の4以上出席しなければ単位認定を受けることができません。

実習評価は実習内容・実習態度・記録を統合して行います。評価配点は実習要項に記載します。

実習場所、実習の詳細は実習要項に記載します。

その他（メッセージ等）：

基礎看護学実習Ⅱ-①では、健康上の問題を抱えた対象者が生活している環境についての関心を高め、対象者に沿った看護を提供していくことの必要性について考えてもらいたいと思います。

基礎看護学実習Ⅱ-②では、2週間にわたり健康上の問題により入院生活を予余儀なくされている患者さんを受け持ち、患者さんとの関係性を深め、情報収集からアセスメントに基づいた看護上の問題点を導き出し、看護援助を考え実施、評価する過程の実際を経験します。初めて看護過程を展開する経験から、対象者への身体的、精神的、社会的な側面を統合し理解を深めていくことの意味、これまでの学びを結び付け、看護とは何かについて考え、対象との関係性を大切にすることへの思いを深めてほしいと思います。

実習は、専門職としての自分自身の生活を見直し、周囲に関心を向けた報告、連絡、相談ができる姿勢も必要となります。日々の生活を整えて実習できる体制を作り、実習に臨んでください。

実習期間

1. 基礎看護学実習Ⅱ-①…健康上の問題が生じた対象が生活する場としての臨床を理解する実習：2020年7月27日（月）～7月30日（木）
2. 基礎看護学実習Ⅱ-②…健康上の問題が生じた対象に対し、看護過程を用いて看護実践の基礎的な能力を養う実習：2020年10月5日（月）～10月30日（金）

区分名： 看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：母性看護学（ Maternity Nursing ）

教員名：篠原好江、渡邊一代、渡邊まどか、非常勤講師

開講年次：2年次，学 期：2019年度 前期 ，必修／選択：必修選択

授業形態：講義演習実習 ，単位数：4.0単位 ，時間数：60時間

概要：

子どもの誕生に伴い家族の関係が変化し、それぞれの役割に移行していく周産期に焦点を当て学習する。マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期・胎児期および新生児期）にある対象の身体的・心理的・社会的変化の特性を理解し、援助の視点と方法について学習する。また、女性のライフステージにおける発達課題や健康の諸問題を通して、母性としての機能が健全に発揮できるような援助の方法を学習する。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

一般目標

1. 母性看護学の対象の理解を通して、母性看護学の意義・役割を学び、母性看護に関して関心を高める。
2. 母性の対象者に関心を持ち、母性機能を発揮できるための対象のニーズに応じた看護を考える。

行動目標

1. 母性の概念および母性看護の意義と役割について説明できる。
2. マタニティサイクル（妊娠期・胎児期、分娩期、産褥期・新生児期）にある対象の身体的変化、心理・社会的変化を説明できる。
3. マタニティサイクルにある対象の健康状態に影響を及ぼす要因を説明できる。
4. ウェルネス看護診断の考え方を説明できる。
5. ウェルネス看護診断に基づいて、対象の健康状態をアセスメントできる。
6. アセスメントに基づいて、対象のよりよい健康を保持・増進するための看護を説明できる。
7. マタニティサイクルにある対象がそれぞれの役割を遂行できる看護を考えることができる。
8. マタニティサイクルの異常について説明できる。
9. ハイリスク妊産婦のニーズと看護について説明できる。
10. 女性のライフサイクルにおける対象のニーズに合わせた看護を説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	○	模擬的な場 に知識を応

	もつ看護専門職者	② 倫理性を高める科目		用できることが単位認定の要件である
		③ 論理的思考能力を高める科目		
		④ 表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		② 人間の理解を深める科目		
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	① 看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		② 看護の実践		
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：森恵美他：母性看護学概論 母性看護学①（系統看護学講座 専門分野Ⅱ），医学書院。

森恵美他：母性看護学各論 母性看護学②（系統看護学講座 専門分野Ⅱ），医学書院。

参考図書：太田操編著：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版，医歯薬出版，2017。

成績評価方法：試験、レポート、平常点

授業内容(学習項目) ※開講順序には変更があります（第1回開講時にお知らせします）。

回数	項目	内容（キーワード等）
第1～5回	母性看護概論	母性看護の概念、ウェルネス看護診断、母子保健統計
第6～9回	ライフサイクル	リプロダクティブヘルス、ウィメンズヘルス
第10～13回	形態機能	性周期、ホルモン、女性生殖器の解剖生理
第14～22回	マタニティサイクル	妊娠期・胎児期の看護
第23～28回		分娩期の看護
第29～38回		産褥期の看護
第39～46回		新生児期の看護
第47～52回		看護過程の展開
第53～57回	マタニティサイクル	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の異常
第58～60回	の異常	ハイリスク妊産婦の看護

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：地域看護学 I (Community Health Nursing I)

教員名：高瀬佳苗

開講年次：2年次，学 期：2020年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義 ，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：この科目では、地域看護と関連のある考え方や概念、看護活動の基盤となるモデルや理論について学び、地域看護活動の目的、特徴、展開方法について包括的に学習する。また、病気の人から健康な人までの様々な健康水準の個人、集団、地域を対象とした行政、学校、産業、そして在宅の場における地域看護について学ぶ。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標(一般)：1) 地域看護の対象、目的、地域看護活動の基盤となる考え方について知る。

2) 行政、学校、産業、そして在宅などの地域を基盤とする地域看護活動について学ぶ。

3) 地域看護学領域で用いられる理論やモデルを知り、地域看護活動の場所における活用について理解する。

学習目標(行動)：1) 地域看護の定義が述べられる。

2) 地域看護に関連する主要な概念について説明できる。

3) 地域看護学の対象を述べることができる。

4) 地域看護活動の場所について列挙することができる。

5) 活動場所の特性に応じた地域看護活動を説明できる。

6) 地域看護活動における理論・モデルの有用性について述べられる。

7) 地域看護学の今後の課題について述べられる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 荒賀直子・後閑容子編. 公衆衛生看護学 jp. インターメディカル. 最新版

参考書： 木下由美子編. エssenシャル地域看護学. 医歯薬出版. 最新版
 宮崎美砂子他編. 最新地域看護学総論. 日本看護協会出版会. 最新版
 宮崎美砂子他編. 最新地域看護学各論 1. 日本看護協会出版会. 最新版
 宮崎美砂子他編. 最新地域看護学各論 2. 日本看護協会出版会. 最新版
 奥山則子他. 地域看護学概論, 標準保健師講座第 1 巻. 医学書院. 最新版
 中山裕美子他. 地域看護技術, 標準保健師講座第 2 巻. 医学書院. 最新版
 中谷芳美他. 対象別地域看護学活動, 標準保健師講座第 3 巻. 医学書院. 最新版

成績評価方法： 出席および授業への参加態度 30%(授業中の不要な私語、携帯電話等の操作は減点になります)、定期試験 70%

その他 (メッセージ等)：看護の対象が個人だけではなく、集団や一定の広がりのある地域全体だという点に特徴がありますので、社会に関する情報にも関心を寄せると学びが深まります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	地域看護学とは	目的、看護の対象、特徴
第2回	地域を基盤とした予防の考え方と地域看護活動	予防の概念、公衆衛生、生活と環境
第3回	地域看護の主要な概念(1) 健康と健康増進	プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション
第4回	地域診断と看護活動に活用できる理論(1) コミュニティアズパートナーモデル	地区の成り立ち、健康問題、看護過程、保健師活動の方向性
第5回	地域診断と看護活動に活用できる理論(2) プリシードプロシードモデル	看護の展開、企画-立案-実施、
第6回	保健行動に関する主要な理論と地域看護活動(1) 健康問題に関する行動の考え方	個人および家族、予防行動、受療行動
第7回	保健行動に関する主要な理論と地域看護活動(2) 健康増進の個人や集団に関する行動の考え方	集団および地域、住民参加、行動変容と健康増進
第8回	地域看護の活動場所と看護活動(1) 市町村	直接的、身近な、住民サービス、地方自治体
第9回	地域看護の活動場所と看護活動(2) 事業所	事業者・労働者に対する健康支援、産業保健
第10回	地域看護の活動場所と看護活動(3) 都道府県	広域的、専門的な住民サービス、保健所保健師
第11回	地域看護の活動場所と看護活動(4) 学校	児童・生徒・職員等の健康保持増進、学校保健
第12回	地域看護の活動場所と看護活動(5) 在宅看護	在宅療養、訪問看護
第13回	地域包括ケアシステムと多職種連携	ケアと仕組み、看護職以外の専門職
第14回	地域看護の主要な概念(2) 看護の対象となる人々と伴走する/発災後～復興期の保健師活動	大規模災害と保健師活動 エンパワー、ドボカシー
第15回	地域看護学と地域看護活動のまとめ	地域看護の歴史、地域看護学の課題、まとめ

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：地域看護学Ⅱ（Community Health Nursing Ⅱ）

教員名：古戸順子 秦暁子

開講年次：2年次，学 期：2020年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義 ，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：地域で暮らす人々の、ライフステージに応じた健康課題（母子、成人、高齢者）とそれに
応じた地域看護活動の実際について学ぶ。また、特定の健康課題を持つ対象者
に対する地域での支援方法（障がい者支援、難病対策、感染症対策、精神保健福祉活動）
について学習する
保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標（一般）：

1. 各ライフステージの特徴と健康課題について理解することができる
2. 対象の発達段階の特性に応じた地域看護活動の実際について学ぶ
3. 対象の健康障がいの特性を理解し、それらに対する地域看護活動について理解することができる

学習目標（行動）：

1. 各ライフステージの特徴と健康課題について説明できる
2. 対象の発達段階の特性に応じた地域看護活動の実際について説明できる
3. 対象の健康障がいの特性を説明できる
4. 対象の健康障がいに応じた地域看護活動について説明できる

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	コミュニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		定の要件である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	〃
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	習得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	〃
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：荒賀直子・後閑容子編：公衆衛生看護学.jp 第5版 インターメディカル

参考書：標美奈子他：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院

標美奈子他：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院

標美奈子他：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院

成績評価方法：出席状況、筆記試験、課題提出物などの総合評価

その他（メッセージ等）：地域で暮らす人々は、様々な年代、様々な健康レベルにあることを理解し、地域で行われている具体的な看護活動について学びましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	地域で暮らす人々の健康生活を支える活動	ヘルスプロモーション、地域保健の活動基盤
第2回	ライフステージに応じた健康課題	母子、成人、高齢者、発達課題、健康課題
第3回	地域で生活する母子の支援（1）	母子健康手帳、乳幼児の発達、乳幼児健康診査、家庭訪問
第4回	地域で生活する母子への支援（2）	子育て世代包括支援センター、育児支援、家庭訪問
第5回	地域で生活する成人の支援	生活習慣病・メンタルヘルス対策、自殺予防、健康診査、保健指導
第6回	地域で生活する高齢者の支援（1）	高齢者、発達課題、健康維持、健康寿命の延伸
第7回	地域で生活する高齢者の支援（2）	介護保険、介護予防活動
第8回	障がい者（児）保健活動	障がい者、障がい児、地域生活、社会資源、地域看護活動
第9回	難病患者への保健活動	難病、療養上の課題、地域看護活動
第10回	難病患者に対する地域ケアシステムづくり	難病患者支援、地域ケアシステム
第11回	地域における精神保健福祉対策	精神障がい者、地域生活、地域看護活動
第12回	地域における感染症対策	感染症、感染症予防、地域看護活動
第13回	地域における歯科保健活動	歯科保健の動向、生涯を通じた歯科保健活動
第14回	学校保健・職域保健と保健師活動の連携	学校保健、職域保健と地域看護活動との連携

第15回	まとめ・生涯にわたる健康支援	
------	----------------	--

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：成人看護学 I (Adult Nursing)

教員名：佐藤菜保子

開講年次：2年次，学 期：2020年度 前期後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：成人期にある人々の特徴、発達課題や健康上のニーズ・健康問題を理解し、対象者の状況に応じた看護実践を行なうための基本的知識および思考方法を学ぶ。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

成人期にある人々の特徴を理解するとともに、成人期の発達課題や健康上のニーズ・健康問題について理解し、各健康レベルに応じて看護実践のあり方や関連する保健医療福祉対策・システムについて理解する。また、成人看護学で学習する周術期・救急・クリティカルケア・慢性期・回復期・終末期にある人々へ看護を提供するために必要な思考能力を養う。

行動目標：

1. 成人看護学とは何か、成人看護学の対象と特徴の概要を述べることができる。
2. 成人期にある人の特徴と役割について述べるができる。
3. 成人期である自分や身近な人々の生活・環境・健康問題の振り返りをおし、成人期の特徴や健康に関する課題を明らかにすることができる。
4. 成人期にある人々の生活と健康やその諸問題に関する背景を社会的側面から理解し、自分の考えを述べるができる。
5. 成人看護学に活用できる理論について理解し、対象に合わせた活用ができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識

	とのコミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		を示せることが単位認定の要件である
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)		①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識

	創造性豊かな看護専門職者	②	人間の理解を深める科目		を示せることが単位認定の要件である
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	該当しない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	該当しない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：安酸史子 編，ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 第3版，MC
メディカ出版 2015.

厚生統計協会，厚生 の 指標 国民衛生の動向，最新版.

参考書： 開講時に提示する

成績評価方法：筆記試験およびレポート、授業参加度をもとに総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：成人期を発達段階およびライフステージの側面からをとらえ、成長・発達の課題と健康上の課題を理解し、成人看護について考えを深めましょう。グループワークでは積極的に意見交換して視野を広げましょう。受講前に授業内容に関する教科書や関連資料を読んでおくこと、授業後には関連文献などを自分で調べ理解を深めましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1 回 (4/15)	成人看護学の理念	成人看護学の対象と特徴の概要を理解する
第 2 回 (4/15)	成人期にある人々の特徴	成人期にある人の生活と役割の特徴と健康との関連の概要を理解する
第 3 回 (4/22)	成人期にある人々の健康問題 (1)	青年期の身体的・心理社会的特徴と健康問題と健康な生活に向けた目標
第 4 回 (4/22)	成人期にある人々の健康問題 (2)	青年期の身体的・心理社会的特徴と健康問題と健康な生活に向けた目標
第 5 回 (5/13)	成人期にある人々の健康問題 (3)	成人期の健康増進を考える
第 6 回 (5/13)	成人期にある人々の健康問題 (4)	成人期の健康増進を考える
第 7 回 (5/20)	成人期にある人々の健康問題 (5)	壮年期・向老期の身体的・心理社会的特徴と健康問題と健康な生活に向けた目標
第 8 回 (5/20)	成人期にある人々の健康問題 (6)	壮年期・向老期の身体的・心理社会的特徴と健康問題と健康な生活に向けた目標
第 9 回 (5/27)	成人期にある人々の健康問題 (7)	生活習慣病の動向と対策
第 10 回 (5/27)	成人期にある人々の健康問題 (8)	生活習慣病の動向と対策
第 11 回 (6/3)	身体侵襲を受けた人への看護に必要な概念	クリティカルケア・周術期看護の特徴と看護援助に必要な概念および看護師の役割
第 12 回	慢性疾患を持つ人への	慢性疾患を持つ患者の理解と看護師の役割

(6/3)	看護に必要な概念	
第 1 3 回 (6/10)	成人看護学を活用できる理論の活用	看護理論を用いたアセスメントおよび保健指導への活用
第 1 4 回 (6/10)	成人看護学を活用できる理論の活用	看護理論を用いたアセスメントおよび保健指導への活用
第 1 5 回 (6/17)	成人看護学を活用できる理論の活用	看護理論を用いたアセスメントおよび保健指導への活用

区分名： 看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）： 成人看護学Ⅱ（Adult NursingⅡ）

教員名：井上水絵、横山郁美、他

開講年次：2年次，学 期：2020年度 前期後期 ， 必修／選択：必修選択

授業形態：講義実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30分時間

概要：成人期にある対象の特徴を踏まえ、個人の健康レベルに応じた健康の維持増進、健康障害からの回復に必要な看護援助を学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

（一般目標）

1. 慢性で長期の経過をたどる対象者の健康障害と看護援助方法について学習する。

（行動目標）

1. 慢性期的な健康障害について理解し、長期的な経過の中で慢性疾患を持つ人とその家族に及ぼす身体的・心理的・社会的影響について説明できる。
2. 慢性看護に適用できる概念や理論について理解することができる。
3. 慢性疾患を持つ人とその家族のセルフケアが生活に与える影響について説明できる。
4. 慢性疾患を持つ人とその家族のセルフケア能力を向上させる看護実践及び必要な支援について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		的に示せることが単位認定の要件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
<p>看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。</p>					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：鈴木久美，他編集：看護学テキスト NiCE 成人看護学 第2版 慢性期看護 病
気とともに生活する人を支える．南江堂．2015

参考書：鈴木志津枝、藤田佐和 編集：慢性期看護論 第2版．ヌーベルヒロカワ．2009

その他、必要に応じて講義の中で紹介する

成績評価方法：出席、課題、試験により総合的に判断する

その他（メッセージ等）：慢性疾患の多くは、中・長期的に療養行動・症状マネジメントを行っていくことが重要です。病気とともに生きる生活していく患者とその家族にとって、病気とともに生きること、日常生活の中に療養行動を組み込みながら、その人らしい生活・人生を送るとは、どういうことなのか、また、そのことを支援していく援助方法について学習します。

* 講義内容・予定は変更することがあります

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	皮膚疾患を持つ人の看護 持つ人の看護	皮膚疾患患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護
第2回	免疫機能障害を持つ人の看護	全身性エリテマトーデス患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護
第3、4回	感覚器障害を持つ人の看護	感覚器疾患を有する患者の身体的、心理・社会的特徴および看護
第5、6回	がん患者への看護1	症状マネジメントよび緩和ケアが必要な人への看護、症状マネジメント、緩和ケアに関するチーム医療の実際
第7、8回	がん患者への看護2	放射線療法、放射線療法中の患者の特徴、症状コントロール、セルフケア支援
第9回	がん患者への看護3	がん化学療法、外来化学療法、症状コントロール、セルフケア支援
第10回	サバイバーの語り	がんサバイバーの語り
第11~13回	呼吸器障害を持つ人の看護	慢性呼吸不全患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護（気管支喘息、COPD）、肺がん患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護、禁煙指導
第14回	人工透析を受ける人への看護（血液透析、腹膜透析）	人工透析を受ける人への看護（血液透析、腹膜透析）
第15~17回	代謝機能障害を持つ人の看護	糖尿病患者の身体・心理・社会的特徴および看護、インスリン療法を受ける人への看護
第18~20回	消化機能障害を持つ人の看護	消化器疾患患者の身体、心理・社会的特徴および看護
第21~23回	造血器疾患を持つ人への看護	造血器疾患により生じる主な症状、化学療法を受ける人への看護、精神的苦痛、ボディイメージの変化、骨髄移植、継続看護、生活指導

第 24~26 回	循環機能障害をもつ人への看護	慢性心不全患者の看護、ペースメーカー、症状コントロール、生活指導とセルフケア、心臓リハビリテーション
第 27~28 回	脳神経機能障害をもつ人への看護	脳・脳神経疾患、パーキンソン病、薬物療法、症状コントロール、リハビリテーション、医療連携、コミュニケーション障害、身体機能障害
第 29~30 回	遺伝看護	カウンセリング、遺伝子検査における意思決定支援、親族に伝えること、社会的不利益など倫理的課題や配慮

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：精神看護学Ⅰ（Psychiatric NursingⅠ）

教員名：大川貴子・佐藤利憲・田村達弥・吾妻陽子

開講年次：3年次，学 期：2020年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義・演習 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：心の健康問題は誰にでも起こりうる問題である。このため、精神看護や精神保健に関する諸問題を疾患という枠組みでとらえるのではなく、生活者という視点から、日々の生活における心の健康の維持・増進、および心の健康問題の予防について、精神看護の役割と援助を学ぶ。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 心の健康について理解する
2. 人間の心と行動の特徴を理解する
3. 各ライフサイクルの特徴と課題を理解する
4. 対象理解の基本的な考え方を理解する
5. 現代社会における心の健康の諸問題について多面的に理解する
6. 心の健康を維持・増進するための看護を理解する

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、習慣スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な問題解決に知識を応用することができることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な問題解決に知識を応用することができることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模範的な場 に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で ある
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を 実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的看護 を実践でき ることが単 位認定の要 件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	計画と立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：開講時に提示する

成績評価方法：最終試験 40%

小テスト 20%

現代社会における心の健康の諸問題（グループワーク・発表）20%

精神保健に関するアプローチ（グループワーク・発表）20%

その他（メッセージ等）：心の健康問題は誰にでも起こりうる問題です。講義を通して様々な心の健康問題を多面的に理解し、精神看護の役割と援助をともに学んでいきましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション	
第2回	心の健康の概念 精神保健	心の健康・人間の心と行動の特徴
第3回	現代社会における心の健康の諸問題①	グループワーク
第4回	現代社会における心の健康の諸問題②	グループワーク
第5回	現代社会における心の健康の諸問題③	グループワーク
第6回	現代社会における心の健康の諸問題④	グループワーク
第7回	現代社会における心の健康の諸問題⑤	グループ間の意見交換
第8回	現代社会における心の健康の諸問題⑥	グループ間の意見交換
第9回	現代社会における心の健康の諸問題⑦	グループ間の意見交換
第10回	心の健康づくり①	対人理解と支援の基本
第11回	心の健康づくり②	対人理解と支援の基本
第12回	心の健康づくり③	対人理解と支援の基本
第13回	心の健康づくり④	アサーショントレーニング
第14回	心の健康づくり⑤	アサーショントレーニング
第15回	心の健康づくり⑥	アサーショントレーニング
第16回	心の健康づくり⑦	動機付け面接法
第17回	心の健康づくり⑧	動機付け面接法
第18回	心の健康づくり⑨	動機付け面接法
第19回	精神保健に関するアプローチ①	グループワーク
第20回	精神保健に関するアプローチ②	グループワーク

第21回	精神保健に関する アプローチ③	グループワーク
第22回	精神保健に関する アプローチ④	グループワーク
第23回	精神保健に関する アプローチ⑤	グループワーク
第24回	精神保健に関する アプローチ⑥	グループワーク
第25回	精神保健に関する アプローチ⑦	グループ毎の発表
第26回	精神保健に関する アプローチ⑧	グループ毎の発表
第27回	精神保健に関する アプローチ⑨	グループ毎の発表
第28回	精神保健に関する アプローチ⑩	グループ毎の発表
第29回	精神保健に関する アプローチ⑪	グループ毎の発表
第30回	精神保健に関する アプローチ⑫	グループ毎の発表